



TITLE:

サン・シモン派の社會改造哲學及び連帶思想(四)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

CITATION:

米田, 庄太郎. サン・シモン派の社會改造哲學及び連帶思想(四). 經濟論叢 1923, 16(6): 922-939

ISSUE DATE:

1923-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128036>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京 叢論濟經

號六第 卷六十第

行發日一月六年二十正大

論叢

賣上税の本質及長所

法學博士 神戸 正雄

日本經濟史の特性

法學士 本庄 榮治郎

モン・パンの社會改造哲學及び連帶思想

文學博士 米田 庄太郎

價値の類型と個性

法學士 恒 藤 恭

時論

支那の產業に對する投資

法學博士 戸田 海市

税法の新改正を論ず

法學博士 小川 郷太郎

說苑

婚姻年齡の統計的研究

經濟學士 岡崎 文規

雜錄

東京市の水面人口及所帶

法學博士 財部 靜治

炭鑛労働者の生計狀態

法學博士 河田 嗣郎

附錄

本誌第十六卷總目錄

サン・シモン派の社會改造哲學及び連帶思想 (四)

米田 庄太郎

五 婦人問題及び新道德論

却說サン、シモン派は千八百二十九年の終りに於て、アンフアンタンとバザールとを最上教父として承認し、此の二人の專制的支配に服従することゝなつたのであるが、併し最上支配權を二人で行なふと云ふ事は、到底永續し得ないことであるのみならず、更にアンフアンタンとバザールとは、其の經歷に於て、又其の性格に於て、大に相異なつて居たから、兩者の分離は早晚避け得られないものであつた。而して此の分離を生ずる直接の原因として、最も有力なものとなつたのは、婦人問題に關する二人の意見の相違であつた。

今サン、シモン派は始めから、婦人の解放は労働者の解放に伴はねばならぬと主張して居たが、併し其主張は舊道德の遵奉者も別に異議を挿まないほどのものであつた。サン、シモンは社會的個人とは男と女とであると説いたが、サン、シモン派は其の思想を更に發展させて、將來の社會に於ては、各社會的職分或は機能は、夫婦によりて行なはる可きものであると論じたのであ

る。而して此の思想は敢て世人の良心を傷けるほどのものでないのみならず、夫れは寧ろ結婚を聖別し、或は之を殆んど強制するに近いものとさへ考へられて居た。

アンフアンタンは始めは、只將來の僧侶即ちサン、シモン派の僧侶に就て、性問題を考へて居ただけで、此處に彼は加特利教の影響を受けて、男女の僧侶は性的關係を結ぶ可からざるものと論じた。併し其後間もなく彼の思想は變化した。而して彼は、長上者は總ての手段によりて、下位者の上に作用せねばならぬ萬能人格者にして、肉は靈と同じく神聖であるから、長上者は下位者をよりよく指導する爲めに、之れと性的關係を有し得るものと考へるに至つた。更に彼は、家族は私有財産及び財産相續の制度と不可分離的なものなれば、今私有財産及び財産相續が廢止されるとすれば、家族も亦當然消滅せねばならないので、集産主義は結局自由戀愛を正當とするに至るものなるを悟つて來たと思はれる。

アンフアンタンは先づ心理學によりて、右の意見を辯護せんと企てた。而して彼の論ずる處によれば、吾人は世界に二種の性質の人間あるを發見する。一は恒定不變の性質を有する人間にして、此の種の人間は只異性の一人とのみ結び着く。他は不恒定な、常に變動する性質を有する人間にして、此の種の人間には異性の相手を變更せんとする欲求が強烈である。文藝はオセロに於て第一種の人間を、又ドンジュアンに於て第二種の人間を表現して居る。而して今日まで人々

は只第一種の人間のみを問題としたので、婚姻殊に基督教的婚姻は其等の人間の爲めに制定されたのである。然るに第二種の人間にありては、彼等の欲求を満足させることを許されないから、彼等は秘密に種々なる方法に訴へ、時には罪を犯すまでも至つたのである。されば此の種の人間に對しては、先づ離婚によりて其の變化慾を満足させる便宜が與へられねばならぬ。但し離婚は決して非難する可き行爲ではなく、賞讃する可き行爲として考へらる可きである。而して最も愛情の強烈にして、又最も熱誠なる人々の中から選ばれたる僧侶夫婦は、同時に右の二種の性質を具有するものである。彼等は相互に熱烈に相愛すると同時に、彼等の下位者を愛し、而して殊に懺悔の時に、其の愛を下位者に示し得る。

アンフアンタンは更に歴史によりて彼の意見を辯護せんとした。而して彼は希臘羅馬のバガニズムの肉感的方面を大に強調したが、殊に彼の讚美したのは、浪漫主義の文藝が流布した假作的中世紀、即ち騎士が其の崇愛する婦人の一微笑を得る爲めに、英雄的冒險をなせる時代であつたアンフアンタンは又觀念の奇妙なる混同によりて、「長者權」(le droit du seigneur)の復興をも望んだのである。

然るにバザールは、右の如きアンフアンタンの嫌惡す可き思想に、斷乎として反對した。彼は先づアンフアンタンが、バガニズムと基督教とを調和せんと企だてた其の混亂せる總合を排斥し

た。バザールの考へによれば、基督教が放棄せるものゝ中にて、吾人が採用す可き何物もなく、又基督教が非難せるものゝ中にて、吾人が正當と認め得ん何物もない。而して僧侶に下位者或は信徒との性的關係を許すと云ふは、是れ原始時代の亂婚を復活させることになる。基督教は個人的愛の麗はしき思想を創造した。併し其の缺點は婦人を劣等視した事にある。サン、シモン新宗教は、婚姻が長上者の承認を得て、二人の平等者の間に成立することゝ望む。而して離婚は今日の無政府状態に於ては已を得ない場合がある。是れ今日の教育はまだ若き男女をして相互によく知り合ひ、合理的選擇をなすことを不可能ならしめて居るからである。併し將來にありては、離婚は禁止されねばならぬ。婚姻の聖別或は神聖視、是れ即ち婦人の眞の解放であるのである。

今婦人問題及び婚姻問題に關して、サン、シモン派の二人の最上教父間に、右の如き意見の差異が生じ、而して二人の間に論争の起つて來たことによりて、同派内に一大紛擾が起り、或人々はアンフアンタンに、又他の人々はバザールに賛成した。併しアンフアンタンの人格的勢力は彼の意見には賛成しない人々をも、尙ほ彼の身邊に惹きつけたので、バザールは遂に千八百三十一年十一月同派を脱退し、更に彼の意見に賛成せる幾多の有力なる人々も間もなく脱退した。かくてアンフアンタンは遂に同派の唯一の法王^{パプ}となつたのである。されど彼は其の際に、舊道徳は新教説の確實に構成されるまで、嚴格に遵奉する可きことを宣言した。又男子に對しては位階制は

保存されるが女子に對しては、夫れは「母」或は「女人メシヤ」「教父」と合して「最上夫婦或は「神聖夫婦」を作る可き婦人」の出現するまで、制定されないことゝなつた。

却説バザール及び其の一味の人々が脱退せる後、アンフアンタンは唯一の教父或は法王となり而してロドリギューは再び重要な地位を占めて來たが、此の際アンフアンタンは更にサン、シモン派は是より新しき方針に進むことを宣言した。而して彼の云ふ處によれば、從來サン、シモン説は出生の特權を攻撃し、才能の權利を主張する爲めに、主として政治問題を論じて居たが、是より主として道德問題を考究し、長上者と下位者との關係、家族の關係、男と女との關係等を改造することに力を注がねばならぬ。殊に教へるよりは一層實行に力を盡さねばならぬ。而して學者は使徒に變り、教説は禮拜或は行法に化す可きである。

然らば其のサン、シモン派の禮拜或は行法と云ふは何を意味するかと云ふに、ロドリギューの説く處によれば、是れ貧しき諸階級の生活を改善する事の出來る財政的及び産業的團結を組織して、「貨幣の道德的勢力」を確立し、殊に労働者の銀行を創設するを主眼とするものである。而して其の銀行に於て集められたる基金は教育館、工業的及び農業的組合等を設立するを可能ならしめるであらう。併しロドリギューの如く貨幣の道德的勢力を信する見解に反對する人々は少くなかつた。且つバザール一派の人々の脱退によりて生ぜるサン、シモン派内の動搖は、中々に靜止

しなかつたから、其處でアンフアンタンは千八百三十一年十一月から翌年二月まで、彼の教説の全體を組織的に論述して、以てサン、シモン派の思想の統一を圖り、夫れによりて同派の團結を固めんとした。而して其の講演はサン、シモン派の思想の發達を考究する爲めには、甚だ重要なものであるから、此處に其の根本思想を簡單に述べて置く。

アンフアンタンの論する處によれば、サン、シモン派の一切の教説は三位一體思想に於て包括される。吾人は至る處に、第三者によりて總合され調和される、相反する二者の對立を見出す。科學と産業とは宗教に於て統一され、人間と世界とは神に於て、又我と非我とは無限者に於て統一される。而して此の統一或は和合は常に増大して行く。歴史の法則は、サン、シモン派が從來考へし如く、有機的時代と批評的時代との連續或は團結に依て反對を除く事ではなく、肉と靈、産業と科學、東洋と西洋、女と男との不斷の進歩的調和である。而して今日最も肝要なるは、新しき權威、即ち書かれた法律の權威に取り代はる可き、生きた法律の權威を確立する事であらねばならぬ。立法者は法律の創造者であるのに、然るに之を法律の子であるが如くに解させる今日の神秘的原理は、早晚排斥されるであらう。僧侶の權威及び下位者の服従を確立するものは愛である。生れつき悪い人間はない。人々は只進歩性の度合を異にするだけである。或人はより速に進歩する性質を有し、或人はより遅く進歩する性質を有する。而して總ての人々の進歩を助長

するのは僧侶の任務である。併し權威なるものは、女が之れに參與する時に、始めて恐れられるものでなく、愛されるものとなる。かくて新しき權威の運載者たる僧侶は、男だけではなく、女も之れに加はらねばならぬ。而して男僧及び女僧は實に彼等の知力によりて人々の上に影響を及ぼすのみならず、又彼等の美容によりても人々の上に影響を及ぼさねばならぬ。彼等は時には感覺的欲求を静め、時には之を燃えさす可きである。世人は有徳なる愛撫抱擁の力を知らない。而して僧侶夫婦の行動の極限に就ては、之を指示するは女である。

アンフアンタンの新解釋の根本思想は、右の如きものであるが、併し彼は夫れによりて豫期の如くにサン、シモン派の動搖を静めることは出来なかつた。殊にロドリギューの如きは、アンフアンタンが新社會に於ては、子供は父を知る可きでないを公言したのを、大に憤慨して、多年多大な力を注いで居たに拘らず、斷然同派を脱退した。されど又アンフアンタンを熱心に崇拜する人々もあつた。而してジュヅエリエ、デラボート、カヴェル等の人々は、彼の新道德説をルグラブ紙上に於て盛んに唱導した。其等の人々はアンフアンタンの新道德は、不道德的であると云ふ非難に對して、かゝる非難を下す世間の道德的腐敗を猛烈に攻撃し、世間一般に行なはれる結婚が、如何に財産を主眼とする金錢的結婚であるかを深刻に指摘した。又淫實を非難しながら實際は益々淫實を盛んならしめて居る偽善的道德家を、大に攻撃した。更に其等の人々は歴史的

に觀察して、サン、シモン派の靈肉合致を目的とする家族制が、如何に只肉の満足のみを目的とする古代の家族制や、又只靈の満足のみを目的とする基督教の家族制に勝れて居るかを、論證せんと企てた。

併しアンファンタンの新道德論が、大に世人の非難を招いたのみならず、更にサン、シモン派の内情に就て種々なる惡風評が傳はり、遂に政府をして同派に壓迫を加へしむるに至つた。而して同派の會合が屢々警官に依て解散されたのみならず、アンファンタン及び幹部の人々は、遂に検事局から起訴されるに至つた。かゝる事情の下に於て、同派の會員は急に減少し、又其の主要なる資源が止まつた。さればアンファンタンは已を得ずルグローブ紙を廢刊し、而して巴里郊外メニルモータンの彼の邸宅に退隱することゝなつた。是れサン、シモン派の歴史上有名なるメニルモータンの退隱と稱せらるものである。併しアンファンタンはかゝる事情の下にありても、決して失望して居なかつたので、彼は千八百三十二年四月二十日のル、グローブ紙最終號に於て公にせる宣言書中、在の如く述べて居る。

『我は新家族の「父」である。』

日々我等は何者であるかを、世に知らせる聲に沈黙を命する前に、我は其の聲が我の何者であるかを世に宣明することを望む。

プロレタリア及び女子を、一の新しき運命に覺醒させる可き、

是れまで神聖なる人類家族から除外され、或は只未成年者として取扱はれるに止まれる總ての人々を、其の家族の中に入らしめる可き、

總ての奴隸、プロレタリア或は女子によりて發せられたる叫びが、世界の誕生以來切望する世界的團結を實現す可き

使命を、神は我に與へたのである。』

尙ほアンフアンタンは、サン、シモン派によりて成就されたる事業を概説したる後、左の如き語を叫んで居る。

『今日奴隸の神的解放者は死んだ。而して此記念日を永久に傳へる爲めに、我等の神聖なる退隱が始まり、又我等は我等の中から、奴隸制度の最後の殘物たる婢僕の身分を消滅させる』。

メニルモータンの退隱は、實に近代文明史上の一異現象とも具倣し得られるものにして、總て聰明な、近代的高等教育を受け、勝れたる性格を具へたる多數の有爲な青年が、アンフアンタンに率ひられてメニルモータンに退隱し、其處で一時修道院的生活を送つたのである。而して後彼等の中から幾多の著名なる人々が現はれた。但し所謂メニルモータン修道院の生活は、サンシモン派の思想の發達を研究する爲めには、さほど重要な意味を有するものでないが、併し類似の

現象が今日我國に於ても現はれる傾向があるから、之を研究することは興味ある問題と思ふ。されど余は此處に之をなす暇がないから、觀過することとする。

六 メニルモンタン修道院解散後のサン、

シモン派の實際的活動及び思想の變遷

アンフアンタンが千八百三十二年四月、彼が選拔せる四十人の弟子を率ひて、メニルモンタンの彼の屋敷に退隱し、其處で數ヶ月間修道院的生活を送れることはサン、シモン派の歴史上甚だ興味ある出來事であるが、併し同派の思想發達上、別に意味を有つて居ないと思ふ。是れ其の修道院的生活は、何等新しき思想を産出して居ないからである。而して同年八月アンフアンタン及び主要なる弟子二名が、社會の秩序を亂し、良風を害し、又集會條例に違反したと云ふ理由にて、禁錮一ケ年に所せられ、罰金百法を科せられた事は、サン、シモン派に大打撃を加へた。そこでアンフアンタンは遂に修道院的團體を解散し、同年十二月入獄した。但し翌年八月特赦によりて出獄したのである。夫れより彼は外國に於て活動せんとし、遂に千八百三十四年多數の有力なる弟子を率ひて埃及に渡り、スエズ運河の開通及びナイル河の工事を企てんとし、而して同國の政府の歡迎を受けて、ナイル河の工事に着手し、千八百三十七年まで同國に留まつたが、其の工

事は全く失敗に了りて佛國に歸へつた。夫れよりアンフアンタンは又政府よりアルゼリに派遣され、同國の科學的調査を命ぜられたが、彼は寧ろ彼の見地からして同國の植民政策を考究し、千八百四十一年に歸國して後「アルゼリの植民政策」を公にした。同書はアンフアンタン流の多くの空想を混じて居るが、併し又實地の觀察に基づける有益なる提案も含んで居るので、其の後佛國政府のアルゼリ植民政策には、同書中の提案を採用せる處もあると云ふ。

今アンフアンタンを始め、サン、シモン派の人々が、彼等の國外的活動の舞臺として、特に埃及やアルゼリの如き阿弗利加の地を選んだ事には、又彼等が阿弗利加や土耳其等を重要視した事には、彼等の思想上に深い根據があるので、而して其の點は彼等の世界主義的傾向を學ぶに就て更に吾々東洋人にとりて甚だ興味があるから、此處に少しく述べて置きたいと思ふ。要するにサン、シモン派の人々は、常に懷疑的な動搖せる西洋に對立させて、信仰の堅固な安靜なる東洋を考へた。又基督教に對立する最も有力なる宗教として、回々教を考へた。而して東西兩洋の結合或は融合、又基督教と回々教との和合を以て、人類の平和的な眞實な進歩の爲めに、甚だ重大なる事と考へたのである。アンフアンタンの愛弟の一人デシユタル(D'Ichthal)の如きは、左の如き意見をも述べて居る。即ち歐羅巴は白人種の大陸であるに對して、阿弗利加は黑人種の國である。而して白人種は科學及び産業を隆盛ならしめ得る男性人種にして、黑人種は只感情によりて

のみ生活する女性人種である。されば両大陸をして相結合せしめ、両人種をして結婚せしめよ。夫れよりして人類史上偉大なる結果が生ずるであらう。而して黑白両人種の會合處となる可きはアルゼリである。尙ほサン、シモン派の人々は、彼等の理想とする新社會組織が、歐羅巴に於てはとても急に實現され難きを感じ、而して阿弗利加に於て先づ之を實現せんとする考へからも、大に阿弗利加を重要視したのである。

却説フリップ王の時代に於ては、埃及に於ける失敗によりて、アンフアンタンと共に歸國せるサン、シモン派の人々の考へが、同失敗に鑒みて段々健實になつて來たと同時に、佛國に止まつて居た同派の人々の考へも亦段々健實になつて來た。而して彼等は主として實際に遂行され得る社會改良、其等の改良を常に創始する強固な政府、及び其等の改良を可能ならしめる物質的富の發達等を大に強調した。かくて彼等は所謂「生きた法則」を暫く措て、君主主義に都合よき權威の原理の復活を圖らんと努力して來たので、レシュヴァリエー(Lochavallier)の如きは、自由、平等、博愛、及び人民主權を、革命的四詭辯として大に攻撃し、デュヴエリエー(Duveynier)の如きは衆議院の勢力の大なるを非難し、貴族院を改造して衆議院を壓迫するの必要を論じた。又彼等は一般に、進歩主義者の呪となれる壞太利を以て、人民が強固な信仰を保持して、よく權威に服従し、君主は人民の批判及び否定の精神を全然抑制しつゝ、國民教育を大に發達させ、且つ科學

及び産業の獎勵に力を注ぎて、之を完成しつゝある理想的君主政治の國として大に賞揚し、佛國はよろしく稟太利を模範とす可きであると主張した。要するに當時のサン、シモン派の人々は、何よりも第一に肝要なるは、強固なる政府の確立であると考へ、而してかゝる政府の力に依て物質的富を大に發達させ、以て一切の階級の物質的、知力的及び道德的進歩を圖らんとしたのである。

更に其頃コレジュ、ヅ、フランスの教授に任命されたサン、シモン派の學者、シュヴァリエー(Chevalier)の如きは、生産の増大を特に重要視し、生産さへ増大すれば、分配の問題は自然に解決されるものであるとまで主張した。而してさきには世界的團結、人類統一の手段として、鐵道の布設を最も重要視して居たサン、シモン派の人々は、今や國富増進策の最も重要なものとして、之を主張して來た。殊にアンファンタンは彼の強大なる統一慾からして、鐵道の統一的國營を主張したが、先づ當面の問題として諸鐵道會社の合同を圖り、夫れが爲めに大に奔走して彼の手腕を認められ、多くの鐵道會社に於て重役の地位を與へられた。そこで彼は又彼の弟子等を幾多の鐵道會社に於て重要な地位に据へたから、此處にサン、シモン派の主要人物は、一般に實業界に於ける有力なる富者となつた。併し彼等の社會的成功は、革命主義者や社會主義者の方面より、猛烈なる非難を招いた。殊にメニルモンタン修道院解散後、革命黨や社會主義に走つた彼の

舊弟子等は、最も猛烈にサン、シモン派を攻撃し、財産の廢止を唱道した人々が、今や猶太人の手先きとなり、財産の奴隸となつたと非難し、彼等はユダであるを罵つた。

然らば今や富者となるアンフアンタンを始め其の他の主要なるサン、シモン派の人々は、もとの社會思想を變更したかと云ふに、決してそうではなかつたので、彼等は矢張り國內に於ける社會改良の必要と、國際的團結の必要とを唱道して已まなかつた。併し以前に於けると同じく、彼等が殊に重要視したのは宗教問題であつた。而して此處に注意すべき新傾向が現はれて居る。千八百三十二年頃において、彼等は基督教にとり代る可き新宗教を設立することを眼目としたのであるが、然るに今や彼等は基督教を改造し、近世社會と調和することによりて、之を保存することを目的として來たのである。此の計畫は既に加特利教會内にも起つて居たので、殊にラメンネー(本雜誌の拙稿「傳統派の社會運帶思想」參考)の如き人が現はれて居た。併しラメンネーは基督教と近世社會との調和を、自由によりて圖らんとしたのであるが、サン、シモン派は産業によりて圖らんとした。而して此の産業によりて、基督教と近世社會との調和を圖んとするサン、シモン派の方針は、ラメンネーの方針よりも、加特利教にとりて危険の少なきものと感じられたから、同教信徒中にもサン、シモン派の方針に共鳴する人々は少なくなつたと云ふ。併し又ストラスブルクの大僧正の如く、産業の優勢が精神生活を墮落させることを恐れて、強く同方針に

反對する人々は僧侶間には多かつたのである。而して此の頃に於けるアンフアンタンの思想は、グレノブルの一加特利信者の高官と交通せる幾多の書簡によりて窺はれるのであるが、夫れによりて見れば、福音書の教へに従へは教會は進歩し得るものである。基督は吾の王國は今此の世のものでないといふて居るので、決して永久に此の世のものでないといふて居ない。而して基督の時代にありては、カイザル即ち俗權は甚だ強大にして、之を指導することは不可能であつた。併し今日ではカイザルは最早威光を有しない。今日のカイザルは人民である。されば何故に教會は人民を指導せんといふのであるか。教會が若し進歩を斥けずして之を獎勵し、物質を賤めずして産業を稱揚せんには、勞働者は教會に復歸するであらう。されど若し教會の説教者が人民を指導し得ないならば、人民は社會主義の説教者に従ふであらう。勞働の組織は教會の成就し得る又成就せねばならぬ一の宗教的仕事である。教會をして不寛容の精神を養て、回々教を侮辱せずして其の偉大を理解せしめよ。其の時には世人は更生せる教義を甘受して、新に基督教の僧侶に従ふであらう。而して基督教の僧侶團は、プロレタリアの人々も自由に進入し得る、又最も強大なる位階制の確立されて居る處の、模範的團體であるのである。

アンフアンタンは忙しき實業生活に、日々齟齬して居たに拘らず、常に大問題を忘れなかつた而して當時の狀態を歎き、盲目的なる政治家が社會改良を無視して居る以上、革命は早晚避け得

られないことを、確信的に豫言して居たが、果して千八百四十八年二月革命が勃發した。然らば同革命後の第二共和制に於ては、サン、シモン派の人々は何をなせしか。

第二共和制の時代は、サン、シモン派の人々が實際的に花々しく活動せる時代であつた。彼等の中にはカルノの如き大臣となれるものや、其他高官の地位を占めた幾多の人々があり、又代議士となりて議會に活躍せるものもあり、又大學教授として思想界に重きをなせる人もあり、又實際藝術家協會を設立して藝術界に勢力を振はんとせるものもあり、又ヅエヴェリエーの如きは、始めには *le Spectateur Républicain* 次には *le Credit* 等の有力なる新聞を發行して、政治界に活動し、更に *la Politique Nouvelle* と題する有力なる雜誌を發行せる人々もあつた。併し思想上に於ては別に新しき傾向は現はれなかつた。此の時代に於てサン、シモン派の人々が最も重要視したるは、國民教育の普及、公的大事業の遂行及び信用制度の改造等であつた。要するに穩健な強固な共和制の下で、當面に必要な公的大事業及び社會改良を斷行せんとするのが、彼等の理想であつたのである。而して夫れが爲めには彼等は、一方に於ては頑冥な保守的ブルジョアの利己的政策と戦ひ、而して他方に於ては突進的なプロレタリアの妄想と争ふた。然し當時の昂奮狀態は穩健派の勝利を許さなかつたので、彼等は勇敢に奮闘せしに拘はらず、其の目的を達することが出来なかつた。而して間もなくナポレオン第三世によりて、第二帝國が建設されたのである。

サン、シモン派の人々は始めは共和制を支持して、ナポレオンの所謂「憲兵政策」には大に抗争したのであるが、併し遂に敗れた。されど彼等は第二帝國の建設後、豫期せざりし光景を見た。

夫れは彼等が支持せる第二共和制の下に於ては、彼等の大に奮闘せしに拘はらず、とても實現されそうには見へなかつた彼等の主張が、ナポレオン第三世によりて、着々實行される形勢の現はれて來たことである。彼等は千八百三十二年以來上に述べし如く、政體や憲法を輕視し、而して鐵道、信用制度、産業及び國民教育等の發達を、根本的に重大なるものと主張し、又政治的自由を輕視し、秩序と進歩とを同時に確立する強大なる權力を切望して居たのである。併し夫れは無力なるフリーツプ王によりては、到底實現し得られないことを覺つて、寧ろ政體の變動を望んで居た其の際に、第二共和制が建設され、且つ彼等の或者は政治上重要な地位を占めたから、此の時こそ彼等の穩健な理想は實現されるものと信じて、大に奮闘したのである。しかも夫れは徒勞に了らんとする恐れが抱かれて居た際に、第二帝國が建設され、而して彼等は益々失望しつゝありし時に、彼等の豫期に反して、議會的共和制が彼等に與へ得ざりしものを、專制君主的政府が與へんとする形勢が、現はれて來たのである。そこで彼等は直ちに第二帝國を承認し、ナポレオン第三世の力によりて、彼等の理想の實現を圖らんとした。彼等の此の態度は當時變節として、共和主義者や社會主義者から、大いに非難されたのであるが、併し彼等の立場をよく理解す

れば敢て非難すべき事でないと思はれる。彼等は始めから政體を重要視せず、只眞實な社會改良のみを切望して居たので、其の目的さへ達せらるれば、政體の如何は敢て問題ではないと考へて居たのである。尙ほ此處に一々述べる暇はないが、彼等は種々なる事情からして、遂にナポレオン第三世を以てサン、シモン派の理想を實現す可き、理想的な君主と信するに至つたのである。更にナポレオン第三世もサン、シモン派の人々や、もと同派に屬せし多くの人々を高官に任命し、又民間の鐵道事業や信用事業に於ても、サン、シモン派の人々の活動を助け、且つサン、シモン派の新聞雜誌記者にして、同帝の信任を得し人々が少なくなかつた。かくて第二帝國の下に於ても、サン、シモン派の人々は、第二共和制の下に於けると同じく、否な夫れよりも以上に、實際的に花々しく活動したのである。併し夫れと同時に彼等は決して哲學を、又神學さへも忘れなかつた。而して千八百五十年代の中頃からして、彼等は再び哲學及び神學の考究に熱中し始め、夫れを最後の思想的活動として、同派は遂に消滅したのである。それで余は終りに、サン、シモン派の哲學的復活として、其の最後の思想的活動を考察し、夫れより同派の思想的發達を概觀して、其の一般的評價を試みることにする。(未完)